

7. 7. 2 陸生植物

(1) 現況調査（現地調査）

1) 調査概要

対象事業実施区域周辺を基本として、陸生植物の現況を把握するために現地調査を行った。陸生植物の調査項目別の調査地点及び調査方法を表 7. 7. 2 - 1 に、調査地点を図 7. 7. 2 - 1 に示す。

表 7. 7. 2 - 1 陸生植物の調査項目別の調査範囲及び調査方法

調査項目		調査範囲	調査方法
陸生植物	植物相	対象事業実施区域周辺 ^{注)} (図 7. 7. 2 - 1 (1) 参照)	目視観察法
	植生	対象事業実施区域周辺 ^{注)} 対象事業実施区域及び周辺約 1 km : 22 地点 (植生図) (図 7. 7. 2 - 1 (2) 参照)	植物社会学的調査法

注) 調査範囲は対象事業実施区域周辺約 200m から 300m の範囲（土地区画整理事業予定区域を含む）となっている。

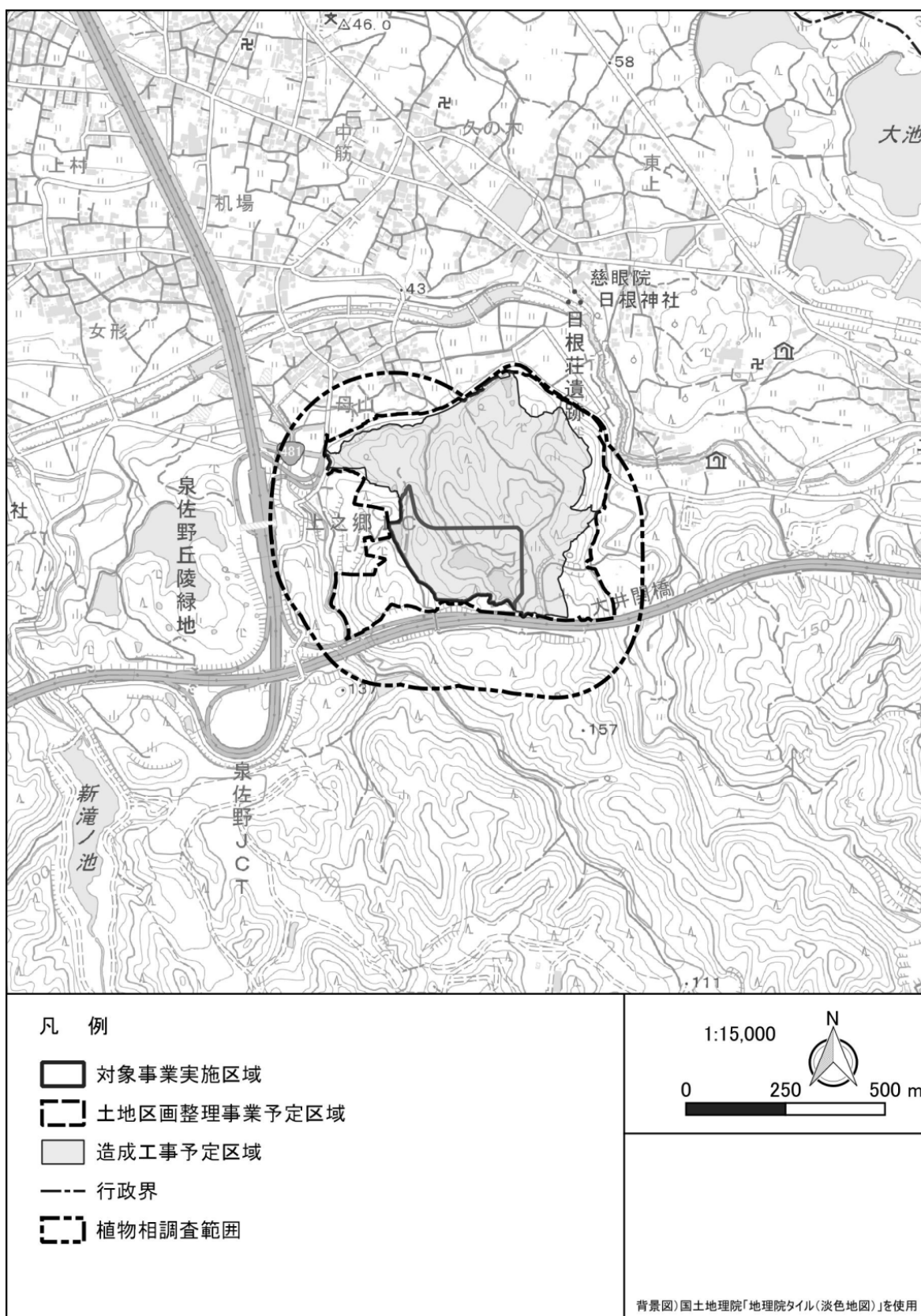


図 7. 7. 2-1 (1) 植物相調査範囲

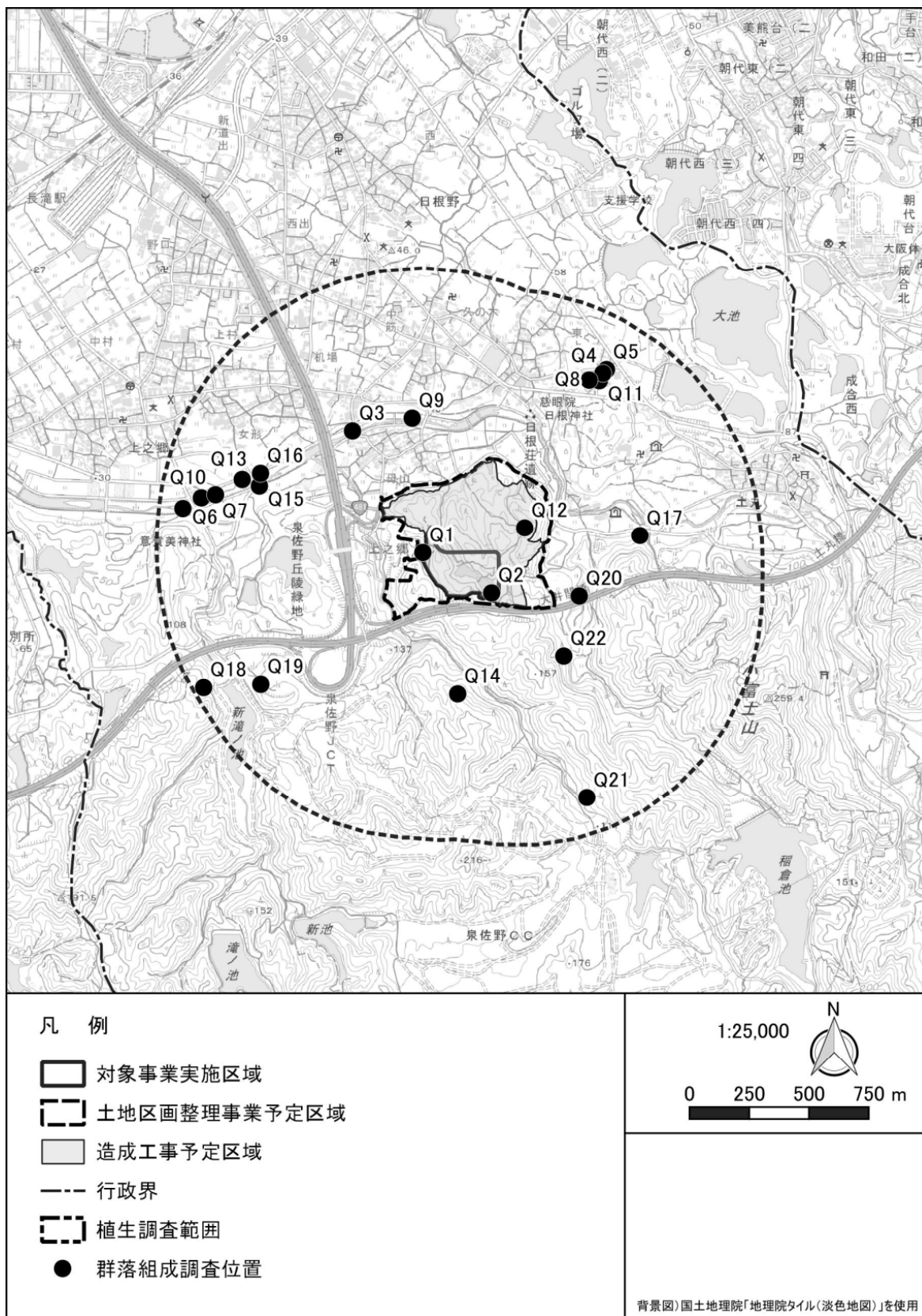


図 7. 7. 2 - 1 (2) 植生調査範囲及び調査地点

2) 調査内容及び調査期間

陸生植物の調査内容及び調査期間を表 7. 7. 2-2 に示す。

表 7. 7. 2-2 陸生植物の調査内容及び調査期間

調査項目		調査方法	調査内容	調査期間
陸生植物	植物相	目視観察法	調査範囲を踏査し、シダ植物以上の高等植物を目視観察により同定・記録した。	早春季：令和 4 年 3 月 15 日～16 日 春季：令和 4 年 5 月 12 日～13 日 夏季：令和 4 年 8 月 9 日～10 日 秋季：令和 4 年 9 月 26 日～28 日
	植生	植物社会学的調査法	調査範囲の植生の典型的な場所に調査地点を設定して種組成の調査を行うとともに、植生の分布状況を把握した。	秋季：令和 4 年 9 月 26 日～27 日

3) 調査結果

ア 植物相

現地調査により確認された植物は表 7. 7. 2-3 及び表 7. 7. 2-4 に示すとおりであり、128 科 632 種であった。調査時期別にみると、早春季は 77 科 235 種、春季は 102 科 377 種、夏季は 116 科 393 種、秋季は 115 科 466 種が確認され、調査期間を通して確認された種は、ヒロハノトウゲシバ、スギナ及びコシバ等の 129 種であった。

表 7. 7. 2-3 分類群別の植物確認種数一覧

分類群			調査時期				全体
			早春季	春季	夏季	秋季	
シダ植物			16科56種	17科59種	17科61種	16科68種	18科83種
種子植物	裸子植物		4科7種	3科6種	4科6種	4科6種	5科9種
	被子植物	単子葉類	11科30種	15科69種	19科77種	18科94種	21科143種
		双子葉類	44科135種	63科235種	72科242種	73科288種	79科385種
		階級なし	4科10種	4科8種	4科8種	4科10種	5科12種
		合計	57科172種	82科312種	95科326種	95科392種	105科539種
合計			77科235種	102科377種	116科393種	115科466種	128科632種

備考) 分類は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(公益財団法人リバーフロント研究所 令和3年)に準拠した。

表 7. 7. 2-4 (1) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
1	ヒカゲノカズラ目	ヒカゲノカズラ科	ヒロハノトウゲシバ	○	○	○	○
2	イワヒバ目	イワヒバ科	ヒメクラマゴケ			○	○
3			カタヒバ			○	○
4			タチクラマゴケ			○	○
5			クラマゴケ		○		○
6	トクサ目	トクサ科	スギナ	○	○	○	○
7	ハナヤスリ目	ハナヤスリ科	オオハナワラビ		○		
8			フユノハナワラビ	○			
9	マツバラン目	マツバラン科	マツバラン	○	○	○	
10	ゼンマイ目	ゼンマイ科	ゼンマイ		○	○	○
11	ウラジロ目	ウラジロ科	コシダ	○	○	○	○
12			ウラジロ	○	○	○	○
13	フサシダ目	カニクサ科	カニクサ	○		○	○
14	ウラボシ目	ホングウシダ科	ホラシノブ	○	○	○	○
15		コバノイシカグマ科	コバノイシカグマ	○	○	○	○
16			イワヒメワラビ	○	○	○	○
17			フモトシダ	○	○	○	○
18			ワラビ	○	○	○	○
19		イノモトソウ科	ホウライシダ	○	○	○	○
20			イワガネゼンマイ	○	○	○	○
21			イワガネソウ	○		○	○
22			タチシノブ	○	○	○	○
23			オオバノイノモトソウ	○	○	○	○
24			イノモトソウ	○	○	○	○
25			アマクサシダ	○			
26		チャセンシダ科	コバノヒノキシダ		○	○	○
27			トラノオシダ	○	○	○	○
28			アオガネシダ	○			○
29		ヒメシダ科	ヒメワラビ		○	○	○
30			ゲジゲジシダ			○	○
31			ホシダ	○	○	○	○
32			コハシゴシダ		○	○	○
33			イヌケホシダ	○	○	○	○
34			ハシゴシダ	○	○		
35			ハリガネワラビ	○		○	○
36			ヤワラシダ			○	○
37			ミゾシダ	○	○	○	○
38		シシガシラ科	シシガシラ	○	○	○	○
39			コモチシダ		○	○	○
40		メシダ科	ウラボシノコギリシダ		○	○	○
41			シケチシダ		○	○	○
42			タニイヌワラビ		○		
43			ホソバシケシダ				○
44			シケシダ	○	○	○	○
45			ヘラシダ	○	○	○	○
46			ミヤマノコギリシダ	○			
47		オシダ科	オオカナワラビ	○	○	○	○
48			オニカナワラビ	○	○	○	○
49			ホソバカナワラビ			○	○
50			ハカタシダ	○	○		

表 7. 7. 2-4 (2) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
51	ウラボシ目	オンシダ科	コバノカナワラビ		○		○
52			リョウメンシダ			○	○
53			ナガバヤブソテツ		○	○	○
54			オニヤブソテツ	○		○	○
55			ヤマヤブソテツ	○		○	○
56			ヤブソテツ	○			○
57			テリハヤブソテツ	○	○	○	○
58			ヤマイタチシダ	○		○	○
59			サイゴクベニシダ	○	○	○	○
60			ベニシダ	○	○	○	○
61			マルバベニシダ	○	○	○	○
62			オオイタチシダ		○	○	○
63			オオベニシダ	○	○	○	○
64			スカイタチシダモドキ	○	○		
65			キノクニベニシダ		○		
66			クマワラビ	○			○
67			エンシュウベニシダ		○	○	○
68			トウゴクシダ	○	○	○	○
69			ミヤマイタチシダ	○			
70			ヒメイタチシダ				○
71			ナガバノイタチシダ	○	○	○	○
72			オクマワラビ	○	○	○	○
73			カタイノデ	○			
74			オオキョズミシダ		○	○	○
75			イノデ	○	○	○	○
76			サイゴクイノデ		○		
77			イノデモドキ	○	○	○	○
78			ジュウモンジシダ	○	○		○
79			ヒメカナワラビ		○		
80		タマシダ科	タマシダ	○	○	○	○
81		ウラボシ科	マメヅタ	○	○	○	○
82			ノキシノブ	○	○	○	○
83			ヒトツバ	○			
84	ソテツ目	ソテツ科	ソテツ	○			
85	イチョウ目	イチョウ科	イチョウ			○	○
86	マツ目	マツ科	モミ	○			
87			アカマツ	○	○	○	○
88	ナンヨウスギ目	マキ科	イヌマキ	○	○	○	○
89	ヒノキ目	ヒノキ科	ヒノキ	○	○	○	○
90			スギ	○	○	○	○
91			ネズミサシ	○	○	○	○
92			メタセコイア		○		
93	スイレン目	スイレン科	ヒツジグサ			○	○
94	シキミ目	マツブサ科	シキミ		○		
95			サネカズラ	○	○	○	○
96	コショウ目	ドクダミ科	ドクダミ		○	○	○
97		ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ		○		
98	クスノキ目	クスノキ科	クスノキ	○	○	○	○
99			ヤブニッケイ	○	○	○	○
100			カナクギノキ	○			○

表 7. 7. 2-4 (3) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
101	クスノキ目	クスノキ科	ヤマコウバシ	○	○	○	○
102			アオモジ		○	○	○
103			タブノキ	○		○	○
104			シロダモ	○			○
105	ショウブ目	ショウブ科	セキショウ	○	○	○	○
106	オモダカ目	サトイモ科	ウラシマソウ		○		
107			アオウキクサ			○	○
108			コウキクサ			○	○
109			カラスビシャク		○		
110			ウキクサ			○	○
111		トチカガミ科	オオカナダモ			○	○
112		ヒルムシロ科	フトヒルムシロ			○	
113	ヤマノイモ目	キンコウカ科	ノギラン				○
114		ヒナノシヤクジョウ科	ヒナノシヤクジョウ			○	
115		ヤマノイモ科	ヤマノイモ		○	○	○
116			カエデドコロ			○	○
117			オニドコロ			○	○
118	タコノキ目	ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ			○	
119	ユリ目	シュロソウ科	シロバナショウジョウバカマ			○	○
120			ショウジョウバカマ		○	○	○
121		サルトリイバラ科	サルトリイバラ	○	○	○	○
122			シオデ			○	○
123		ユリ科	ウバユリ	○			
124			シンテッポウユリ			○	○
125			ササユリ		○		
126	クサスギカズラ目	ラン科	キンラン		○		
127			シュンラン	○	○	○	○
128			コ克蘭	○	○	○	○
129		アヤメ科	シャガ		○	○	○
130			ニワゼキショウ		○		
131		ヒガンバナ科	ノビル		○		
132			ニラ ^{注)}				○
133			ヒガンバナ	○	○		○
134			スイセン	○			
135		クサスギカズラ科	キジカクシ	○			
136			ハラン			○	○
137			ツルボ	○			○
138			ヒメヤブラン	○		○	○
139			ヤブラン	○	○	○	○
140			ノシラン			○	
141			ジャノヒゲ	○	○	○	○
142			ナガバジャノヒゲ	○			○
143			オオバジャノヒゲ			○	○
144			ナルコユリ				○
145	ヤシ目	ヤシ科	シュロ	○	○	○	○
146			トウジュロ			○	○
147	ツユクサ目	ツユクサ科	ツユクサ		○	○	○
148			イボクサ				○
149			ミドリハカタカラクサ	○	○	○	○
150		ミズアオイ科	コナギ			○	○

注) ニラは民家付近の確認であり、栽培されていた個体が野生化した逸出種と推定される。

表 7. 7. 2-4 (4) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
151	イネ目	イグサ科	ハナビゼキショウ		○		
152			イグサ				○
153			コゴメイ			○	○
154			ホソイ	○	○		
155			クサイ		○	○	○
156			スズメノヤリ	○	○		
157			ヤマスズメノヒエ		○		
158		カヤツリグサ科	シラスゲ		○	○	
159			ミヤマシラスゲ		○	○	
160			マスクサ		○		
161			ジュズスゲ		○	○	○
162			ヒカゲスゲ		○		
163			ナキリスゲ	○			○
164			アオスゲ		○		
165			タチスゲ		○		
166			ゴウソ		○		
167			ノゲヌカスゲ		○		
168			ヒメゴウソ		○		
169			ヤワラスゲ		○		
170			モエギスゲ		○		
171			アイダクグ			○	○
172			ヒメクグ			○	○
173			タマガヤツリ			○	○
174			メリケンガヤツリ			○	○
175			ヒナガヤツリ			○	○
176			アゼガヤツリ			○	○
177			コゴメガヤツリ				○
178			カヤツリグサ			○	○
179			アオガヤツリ			○	○
180			ヒデリコ			○	○
181			ホタルイ			○	○
182			イヌホタルイ			○	○
183			フトイ				○
184			アブラガヤ				○
185		イネ科	ヤマヌカボ		○		
186			ヌカボ		○		
187			コヌカグサ			○	○
188			ヌカススキ		○		
189			スズメノテッポウ	○	○		
190			メリケンカルカヤ	○	○	○	○
191			コブナグサ				○
192			ダンチク	○	○	○	
193			コバンソウ		○		
194			ヒメコバンソウ		○		
195			イヌムギ		○	○	
196			ヒゲナガスズメノチャヒキ		○		
197			キツネガヤ			○	○
198			ジュズダマ	○		○	○
199			ギョウギシバ		○	○	○
200			メヒシバ			○	○

表 7. 7. 2-4 (5) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
201	イネ目	イネ科	コメヒシバ				○
202			アキメヒシバ				○
203			イヌビエ			○	○
204			オヒシバ			○	○
205			カモジグサ		○	○	○
206			シナダレスズメガヤ		○	○	○
207			カゼクサ				○
208			ニワホコリ			○	○
209			トボシガラ		○		
210			ドジョウツナギ		○		
211			チガヤ	○	○	○	○
212			チゴザサ			○	○
213			ササガヤ			○	○
214			アゼガヤ				○
215			ネズミホソムギ		○		
216			ササクサ		○	○	○
217			アシボソ				○
218			ススキ	○	○	○	○
219			コチヂミザサ		○	○	○
220			ケチヂミザサ			○	○
221			ヌカキビ	○			○
222			オオクサキビ				○
223			シマスズメノヒエ			○	○
224			キシュウスズメノヒエ			○	○
225			アメリカスズメノヒエ				○
226			チカラシバ				○
227			クサヨシ		○		
228			ツルヨシ				○
229			セイタカヨシ	○			
230			モウソウチク	○	○	○	○
231			マダケ	○	○	○	○
232			ネザサ	○	○	○	○
233			ケネザサ		○		
234			メダケ		○	○	○
235			ミゾイチゴツナギ		○		
236			スズメノカタビラ	○	○		
237			イチゴツナギ		○		
238			ヒエガエリ		○		
239			オニウシノケグサ		○	○	○
240			アキノエノコログサ			○	○
241			コツブキンエノコロ				○
242			キンエノコロ				○
243			エノコログサ			○	○
244			ネズミノオ				○
245			カニツリグサ		○		
246			ナギナタガヤ		○		
247			シバ			○	○
248	キンボウゲ目	ケシ科	ジロボウエンゴサク	○			
249			ムラサキケマン	○	○		○
250			タケニグサ		○		

表 7. 7. 2-4 (6) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
251	キンボウゲ目	ケシ科	ナガミヒナゲシ		○		
252		アケビ科	アケビ	○	○	○	○
253			ミツバアケビ	○	○	○	○
254			ムベ	○	○	○	○
255		ツツラフジ科	アオツツラフジ		○	○	○
256		メギ科	ナンテン	○	○	○	○
257		キンボウゲ科	ボタンヅル		○	○	○
258			センニンソウ	○	○	○	○
259			キクザキリュウキンカ	○			
260			ケキツネノボタン	○	○		
261			ウマノアシガタ		○		
262			キツネノボタン	○	○		○
263			ヒメウズ	○	○		
264	ヤマモガシ目	アワブキ科	ヤマビワ	○			
265	ユキノシタ目	マンサク科	イスノキ	○			
266		ユズリハ科	ユズリハ	○			○
267			ヒメユズリハ	○	○	○	○
268		ベンケイソウ科	コモチマンネングサ		○		
269	ブドウ目	ブドウ科	ノブドウ		○	○	○
270			ヤブカラシ		○	○	○
271			ツタ		○		○
272			エビヅル			○	○
273			アマヅル		○	○	○
274	マメ目	マメ科	ネムノキ		○	○	○
275			イタチハギ		○	○	○
276			ヤブマメ		○	○	○
277			ホドイモ			○	○
278			アレチヌスビトハギ	○	○	○	○
279			ノササゲ		○	○	○
280			ツルマメ		○		
281			ケヤブハギ			○	○
282			ヌスビトハギ			○	○
283			コマツナギ	○		○	○
284			マルバヤハズソウ			○	○
285			ヤハズソウ			○	○
286			メドハギ	○	○	○	○
287			ネコハギ		○		
288			コメツブウマゴヤシ		○		
289			クズ		○	○	○
290			タンキリマメ			○	○
291			ハリエンジュ				○
292			エビスグサ			○	○
293			コメツブツメクサ	○	○		
294			シロツメクサ	○	○	○	○
295			スズメノエンドウ	○	○		
296			ヤハズエンドウ	○	○		
297			フジ		○	○	○
298			ナツフジ		○	○	○
299	バラ目	グミ科	ナワシログミ	○	○	○	○
300			アキグミ		○		

表 7. 7. 2-4 (7) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
301	バラ目	クロウメモドキ科	イソノキ				○
302		ニレ科	アキニレ		○	○	○
303		アサ科	ムクノキ		○	○	○
304			エノキ	○	○	○	○
305			カナムグラ			○	○
306		クワ科	ヒメコウゾ		○	○	○
307			クワクサ			○	○
308			イヌビワ	○	○	○	○
309			イタビカズラ	○	○	○	○
310			ヒメイタビ	○	○	○	○
311			マグワ			○	○
312			ヤマグワ				○
313		イラクサ科	ヤブマオ		○	○	○
314			カラムシ		○	○	○
315			メヤブマオ		○	○	○
316			ナガバヤブマオ			○	○
317			サンショウソウ	○		○	○
318			ミズ				○
319			ヤマミズ				○
320			アオミズ				○
321		バラ科	キンミズヒキ		○	○	○
322			ザイフリボク		○		
323			ウラジロノキ		○	○	○
324			ヤマザクラ	○	○	○	○
325			ビワ	○	○	○	○
326			ダイコンソウ	○	○		
327			ヤマブキ				○
328			リンボク	○	○		
329			ウワミズザクラ			○	○
330			カナメモチ	○	○	○	○
331			オヘビイチゴ		○		
332			キジムシロ			○	
333			ミツバツチグリ		○		
334			ヘビイチゴ	○	○	○	○
335			ヤブヘビイチゴ		○	○	○
336			カマツカ		○	○	○
337			トキワサンザシ			○	○
338			ノイバラ	○	○	○	○
339			ミヤコイバラ		○	○	○
340			フユイチゴ	○	○	○	○
341			クサイチゴ	○	○	○	○
342			ニガイチゴ	○	○	○	○
343			モミジイチゴ			○	○
344			ナワシロイチゴ		○	○	○
345			エビガライチゴ	○			
346			コジキイチゴ		○	○	○
347	ブナ目	ブナ科	クリ		○	○	○
348			ツブラジイ	○	○	○	○
349			アラカシ	○	○	○	○
350			シラカシ	○			○

表 7. 7. 2-4 (8) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
351	ブナ目	ブナ科	ウバメガシ	○	○	○	○
352			コナラ	○	○	○	○
353			アベマキ	○			○
354		ヤマモモ科	ヤマモモ	○	○	○	○
355		カバノキ科	ハンノキ		○	○	○
356	ウリ目	ウリ科	アマチャヅル	○	○	○	○
357			カラスウリ	○		○	○
358			キカラスウリ				○
359			スズメウリ			○	○
360	ニシキギ目	ニシキギ科	ツルウメモドキ		○	○	○
361			コマユミ	○	○	○	○
362			ツリバナ		○		
363			マユミ		○	○	○
364	カタバミ目	カタバミ科	カタバミ	○	○	○	○
365			ムラサキカタバミ		○	○	○
366			オッタチカタバミ		○	○	○
367			オオキバナカタバミ	○			
368	キントラノオ目	トウダイグサ科	エノキグサ		○	○	○
369			コニシキソウ			○	○
370			オオニシキソウ			○	○
371			ニセシマニシキソウ			○	○
372			アレチニシキソウ			○	○
373			アカメガシワ		○	○	○
374			シラキ				○
375			ナンキンハゼ		○	○	○
376			アブラギリ			○	○
377		コミカンソウ科	コバンノキ			○	○
378		ミゾハコベ科	ミゾハコベ			○	○
379		スマレ科	タチツボスミレ	○	○		
380			シハイスミレ		○	○	
381		オトギリソウ科	オトギリソウ		○	○	
382	フウロソウ目	フウロソウ科	アメリカフウロ	○	○		○
383			ゲンノショウコ	○	○	○	○
384	フトモモ目	ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ			○	○
385			ヒメミソハギ			○	○
386			ミズマツバ				○
387			ヒシ			○	○
388		アカバナ科	ミズタマソウ			○	○
389			ヒレタゴボウ				○
390			チョウジタデ			○	○
391			メマツヨイグサ		○	○	○
392			コマツヨイグサ		○	○	○
393			ユウゲショウ		○		
394	ミツバウツギ目	ミツバウツギ科	ゴンズイ			○	○
395	ムクロジ目	ウルシ科	ヌルデ		○	○	○
396			ハゼノキ		○	○	○
397			ヤマハゼ		○	○	○
398			ヤマウルシ		○	○	○
399		ムクロジ科	イロハモミジ		○	○	○
400		ミカン科	マツカゼソウ	○			

表 7. 7. 2-4 (9) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
401	ムクロジ目	ミカン科	イヌザンショウ		○	○	○
402		ニガキ科	ニワウルシ			○	○
403		センダン科	センダン		○	○	○
404	アオイ目	アオイ科	フヨウ		○		○
405			ゼニバアオイ		○		
406			フユアオイ		○		
407			キンゴジカ			○	○
408		ジンチョウゲ科	ガンピ		○	○	○
409	アブラナ目	アブラナ科	カラシナ	○	○		
410			ナズナ	○	○		
411			ニシノオオタネツケバナ	○	○	○	
412			タネツケバナ	○	○		
413			オオバタネツケバナ		○		
414			カラクサナズナ	○	○		
415			マメグンバイナズナ		○		
416			オランダガラシ	○	○	○	○
417			イヌガラシ		○		○
418	ナデシコ目	タデ科	イタドリ		○	○	○
419			ヒメツルソバ		○		
420			ミズヒキ		○	○	○
421			オオイヌタデ				○
422			イヌタデ			○	○
423			ハルタデ				○
424			シンミズヒキ			○	
425			イシミカワ		○	○	○
426			ハナタデ				○
427			ボントクタデ				○
428			ミゾソバ		○	○	○
429			スイバ	○	○		○
430			アレチギシギシ		○	○	
431			ギシギシ				○
432			エゾノギシギシ	○			○
433		ナデシコ科	ノミノツツリ		○		
434			オランダミミナグサ	○	○		
435			ノハラナデシコ		○		
436			コモチナデシコ		○		
437			ツメクサ	○			
438			ムシトリナデシコ		○	○	○
439			シロバナマンテマ		○		
440			ウシハコベ	○	○		○
441			コハコベ	○	○		
442			ミドリハコベ	○	○		○
443			ノミノフスマ	○	○		
444		ヒユ科	イノコヅチ			○	○
445			ヒナタイノコヅチ		○	○	○
446			イヌビユ				○
447			ホナガイヌビユ			○	○
448			コアカザ		○		
449		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ			○	○
450		ザクロソウ科	クルマバザクロソウ				○

表 7. 7. 2-4 (10) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
451	ナデシコ目	ザクロソウ科	ザクロソウ			○	○
452		スベリヒユ科	スベリヒユ			○	○
453	ミズキ目	ミズキ科	クマノミズキ		○	○	○
454		アジサイ科	ウツギ		○	○	○
455			マルバウツギ		○	○	○
456			アジサイ		○	○	○
457	ツツジ目	サカキ科	サカキ	○	○	○	○
458			ヒサカキ	○	○	○	○
459		カキノキ科	カキノキ	○	○	○	○
460		サクラソウ科	マンリョウ	○	○	○	○
461			ヤブコウジ	○	○	○	○
462			ツルコウジ	○			
463			オカトラノオ		○		
464			コナスビ		○	○	○
465			タイミンタチバナ	○		○	○
466		ツバキ科	ヤブツバキ	○	○	○	○
467			チャノキ	○	○	○	○
468		ハイノキ科	ミミズバイ	○	○	○	○
469			クロキ		○		
470			シロバイ	○			
471			クロバイ	○	○	○	○
472		エゴノキ科	エゴノキ		○	○	○
473		リョウブ科	リョウブ		○	○	○
474		ツツジ科	ネジキ		○	○	○
475			ヤマツツジ				○
476			モチツツジ	○	○	○	○
477			コバノミツバツツジ			○	○
478			シャシャンボ	○	○	○	○
479			ウスノキ			○	○
480			ケアクシバ		○		
481			ナツハゼ			○	○
482			カンサイスノキ		○		
483	アオキ目	アオキ科	アオキ	○	○	○	○
484	リンドウ目	アカネ科	アリドオシ				○
485			オオアリドオシ	○	○	○	○
486			ヒメヨツバムグラ		○	○	
487			ヤエムグラ	○	○		
488			ヨツバムグラ				○
489			カワラマツバ		○	○	○
490			クチナシ	○	○		
491			ツルアリドオシ	○	○	○	○
492			ハシカグサ			○	○
493			ヘクソカズラ		○	○	○
494			アカネ		○		
495		リンドウ科	アケボノソウ			○	○
496		キョウチクトウ科	ガガイモ		○	○	○
497			テイカカズラ	○	○	○	○
498			ケテイカカズラ		○	○	
499			ツルニチニチソウ	○	○	○	○
500	ナス目	ヒルガオ科	マルバアメリカアサガオ				○

表 7. 7. 2-4 (11) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
501	ナス目	ヒルガオ科	ホシアサガオ				○
502		ナス科	ヒロハフウリンホオズキ				○
503			テリミノイヌホオズキ				○
504			ヒヨドリジョウゴ		○	○	○
505			オオイヌホオズキ			○	○
506			イヌホオズキ				○
507			カンザシイヌホオズキ			○	
508	ムラサキ目	ムラサキ科	ハナイバナ			○	○
509			キュウリグサ	○	○		
510	シソ目	モクセイ科	マルバアオダモ		○	○	○
511			ネズミモチ	○	○	○	○
512			トウネズミモチ	○	○	○	○
513			イボタノキ	○	○	○	○
514			キンモクセイ	○	○		
515			ヒイラギ	○	○	○	○
516		オオバコ科	オオバコ		○	○	○
517			ヘラオオバコ	○	○		
518			ツボミオオバコ		○		
519			タチイヌノフグリ	○	○		
520			フラサバソウ	○			
521			ムシクサ		○		
522			オオイヌノフグリ	○	○		
523		アゼナ科	ヒロハスズメノトウガラシ			○	○
524			タケトアゼナ			○	○
525			アメリカアゼナ			○	○
526			アゼナ			○	○
527			ウリクサ			○	○
528			アゼトウガラシ			○	○
529		シソ科	キランソウ	○	○	○	○
530			ムラサキシキブ		○	○	○
531			ヤブムラサキ		○	○	○
532			クサギ		○	○	○
533			トウバナ	○	○	○	○
534			カキドオシ	○	○	○	○
535			ヤマハッカ			○	○
536			ホトケノザ	○	○		○
537			ヒメオドリコソウ	○	○		
538			マルバハッカ		○		
539			ヒメジソ				○
540			イヌコウジュ				○
541			アキノタムラソウ			○	○
542			オカタツナミソウ		○		
543			タツナミソウ				○
544			ニガクサ				○
545			ツルニガクサ			○	○
546		サギゴケ科	ムラサキシキブ	○		○	○
547			トキワハゼ			○	○
548		キリ科	キリ		○		
549		キツネノマゴ科	オギノツメ				○
550			キツネノマゴ			○	○

表 7. 7. 2-4 (12) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				早春季	春季	夏季	秋季
551	シソ目	クマツヅラ科	ヤナギハナガサ		○		
552			アレチハナガサ	○		○	○
553			ダキバアレチハナガサ			○	○
554			ハマクマツヅラ			○	○
555	モチノキ目	モチノキ科	ナナミノキ	○	○	○	○
556			イヌツゲ	○	○	○	○
557			タマミズキ			○	○
558			ソヨゴ	○	○	○	○
559			クロガネモチ	○	○	○	○
560			ウメモドキ			○	○
561	キク目	キキョウ科	ツリガネニンジン		○		
562			ミゾカクシ			○	○
563			ヒナギキョウ		○		
564		キク科	オカダイコン				○
565			オオブタクサ				○
566			ヨモギ	○	○	○	○
567			シュウブンソウ			○	○
568			ヨメナ			○	○
569			センダングサ				○
570			アメリカセンダングサ			○	○
571			コセンダングサ			○	○
572			ヤブタバコ			○	○
573			コヤブタバコ				○
574			ホソバガンクビソウ				○
575			ガンクビソウ			○	○
576			サジガンクビソウ			○	○
577			トキンソウ			○	○
578			ノアザミ	○	○	○	
579			ベニバナボロギク			○	○
580			アメリカタカサブロウ			○	○
581			タカサブロウ			○	○
582			ダンドボロギク			○	○
583			ヒメジョオン	○	○	○	○
584			ヒメムカシヨモギ			○	○
585			オオアレチノギク	○	○	○	○
586			オオヒヨドリバナ				○
587			ホソバノチチコグサモドキ		○		
588			ウラジロチチコグサ	○			
589			チチコグサモドキ	○	○	○	
590			ウスベニチチコグサ		○		
591			チチコグサ		○	○	○
592			ククイモ			○	○
593			キツネアザミ	○			
594			ヒメブタナ	○	○	○	○
595			ブタナ		○		
596			ニガナ		○		
597			ハナニガナ				○
598			オオジシバリ		○		
599			イワニガナ	○			
600			アキノノゲシ		○	○	○

表 7. 7. 2-4 (13) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期					
				早春季	春季	夏季	秋季		
601	キク目	キク科	トゲチシャ			○	○		
602			ヤブタビラコ		○				
603			ムラサキニガナ		○	○	○		
604			コウヤボウキ		○	○	○		
605			フキ	○	○				
606			ハハコグサ	○	○				
607			ナルトサワギク	○	○		○		
608			ノボロギク		○		○		
609			セイタカアワダチソウ	○	○	○	○		
610			ノゲシ	○	○	○	○		
611			セイヨウタンポポ		○	○	○		
612			トウカイタンポポ	○					
613			オオオナモミ		○	○	○		
614			アカオニタビラコ	○	○	○	○		
615	セリ目	ウコギ科	タラノキ	○	○	○	○		
616			カクレミノ	○		○	○		
617			ヤツデ	○	○	○	○		
618			キツタ	○	○	○	○		
619			チドメグサ			○	○		
620			セリ科	ツボクサ			○	○	
621		ミツバ				○	○		
622		セリ		○					
623		ヤブニンジン		○	○				
624		ヤブジラミ			○				
625		オヤブジラミ		○	○				
626		マツムシソウ目		ガマズミ科	ガマズミ				○
627					コバノガマズミ		○	○	○
628			サンゴジュ				○	○	
629	スイカズラ科		ウグイスカグラ				○		
630			ヤマウグイスカグラ		○	○	○		
631			スイカズラ	○	○	○	○		
632			オトコエシ				○		
合計 56目128科632種				235種	377種	393種	466種		

備考) 種名及び配列等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(公益財団法人リバーフロント研究所 令和3年)に準拠した。

イ 植生

(ア) 植生の状況

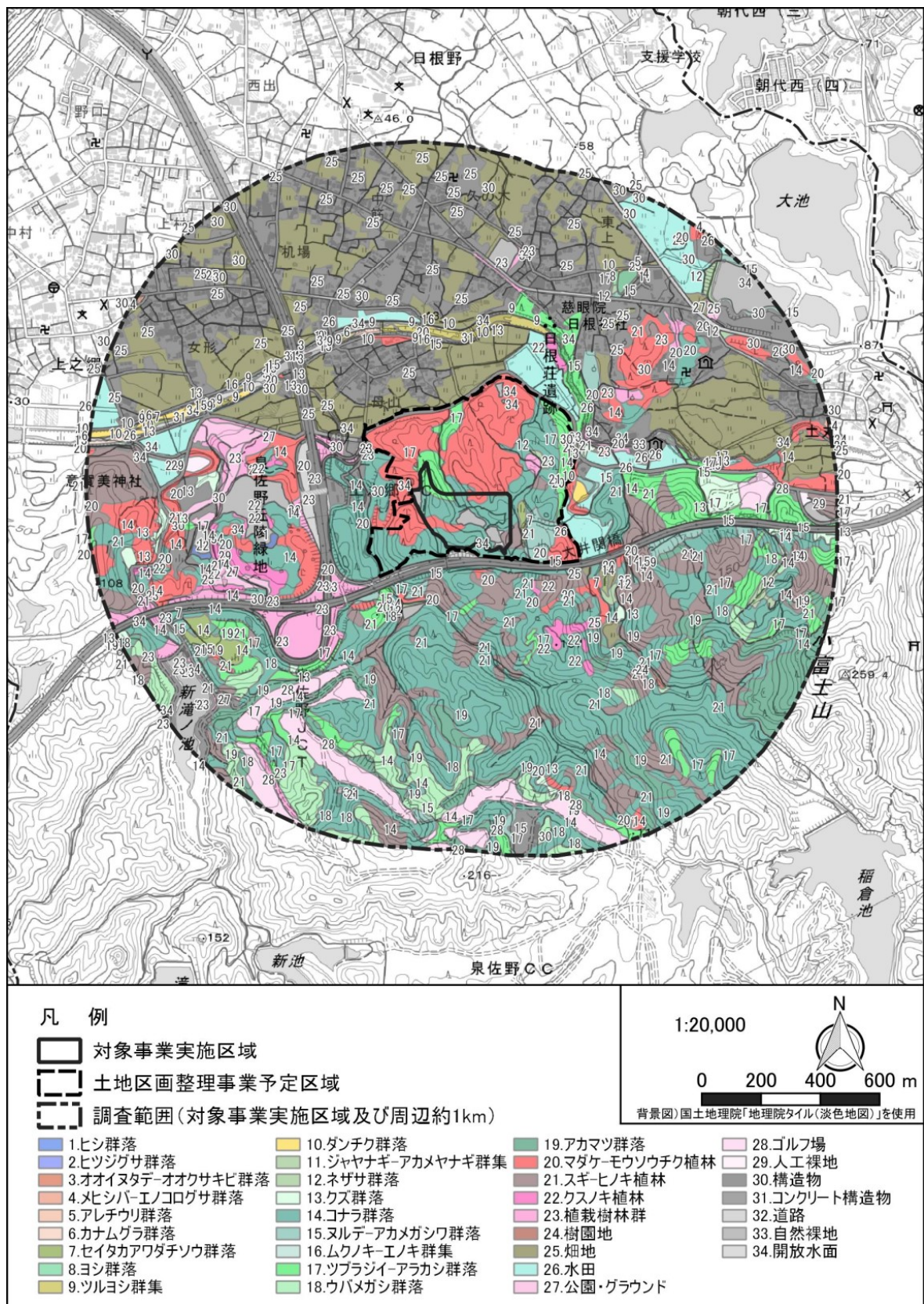
現地調査により、表 7. 7. 2-5 に示す 22 単位の植生区分（No. 1 から No. 22）と 12 単位の土地利用区分（No. 23 から No. 34）の合計 34 単位の区分が確認された。

これらの分布状況を図 7. 7. 2-2 及び図 7. 7. 2-3 に、各植生単位の概要を表 7. 7. 2-6 に示す。

調査範囲においては、山地及び丘陵域でコナラ群落、ツブラジイ、アラカシ群落、アカマツ群落、マダケーモウソウチク群落、ウバメガシ群落及びスギーヒノキ植林等の樹林のほか、ゴルフ場、公園、グラウンド及び開放水面のため池等の分布が確認された。また、樫井川でヨシ群落、ツルヨシ群落、ダンチク群落及びカナムグラ群落等が確認され、その周辺では畑地、水田及び構造物（住宅地）等の分布が確認された。

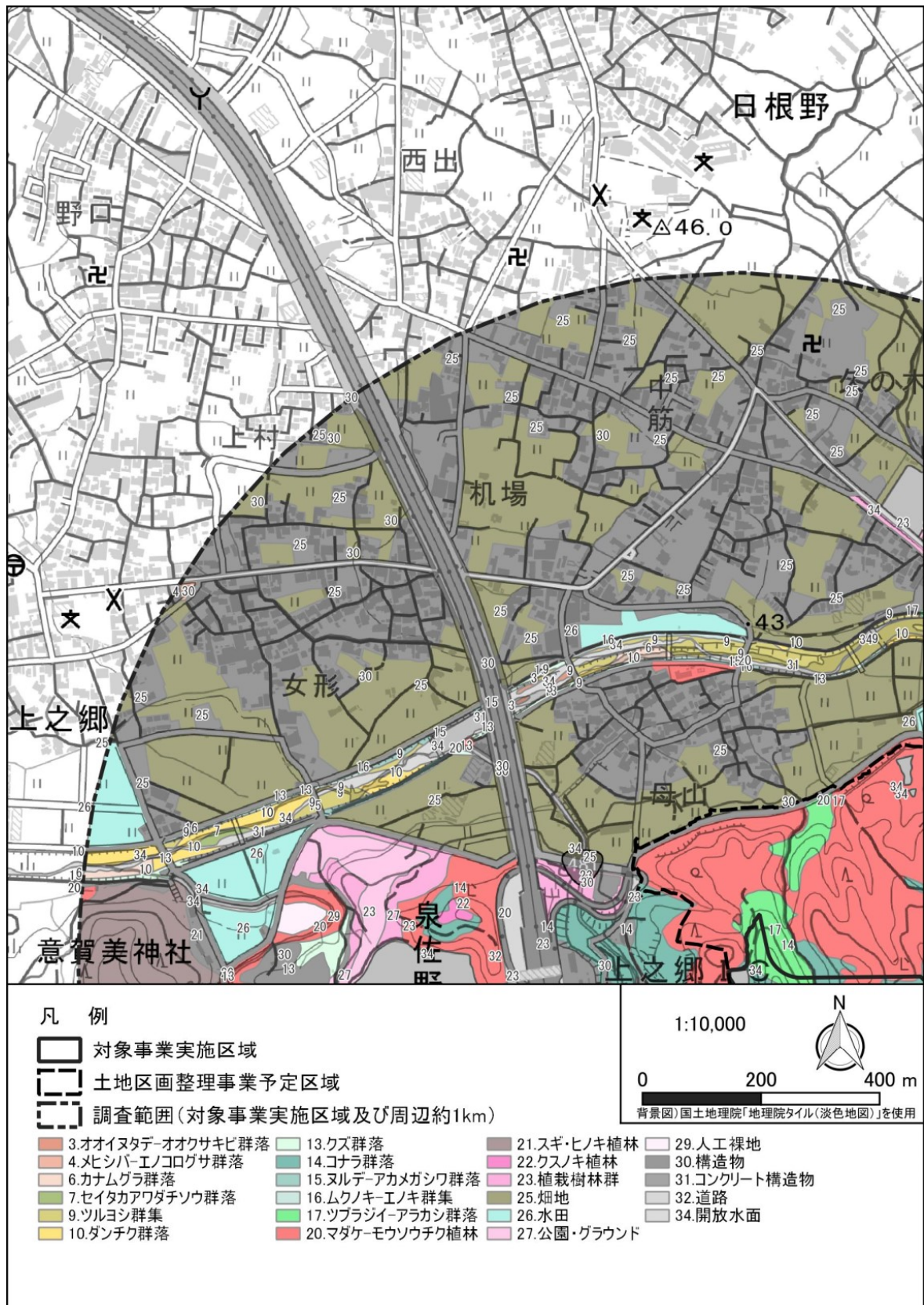
表 7. 7. 2-5 植物群落及び土地利用区分一覧

No.	群 落 名
1	ヒシ群落
2	ヒツジグサ群落
3	オオイヌタデ-オオクサキビ群落
4	メヒシバ-エノコログサ群落
5	アレチウリ群落
6	カナムグラ群落
7	セイタカアワダチソウ群落
8	ヨシ群落
9	ツルヨシ群集
10	ダンチク群落
11	ジャヤナギ-アカメヤナギ群集
12	ネザサ群落
13	クズ群落
14	コナラ群落
15	ヌルデ-アカメガシワ群落
16	ムクノキ-エノキ群集
17	ツブラジイ-アラカシ群落
18	ウバメガシ群落
19	アカマツ群落
20	マダケ-モウソウチク群落
21	スギ-ヒノキ植林
22	クスノキ植林
23	植栽樹林群
24	樹園地
25	畑地
26	水田
27	公園・グラウンド
28	ゴルフ場
29	人工裸地
30	構造物
31	コンクリート構造物
32	道路
33	自然裸地
34	開放水面



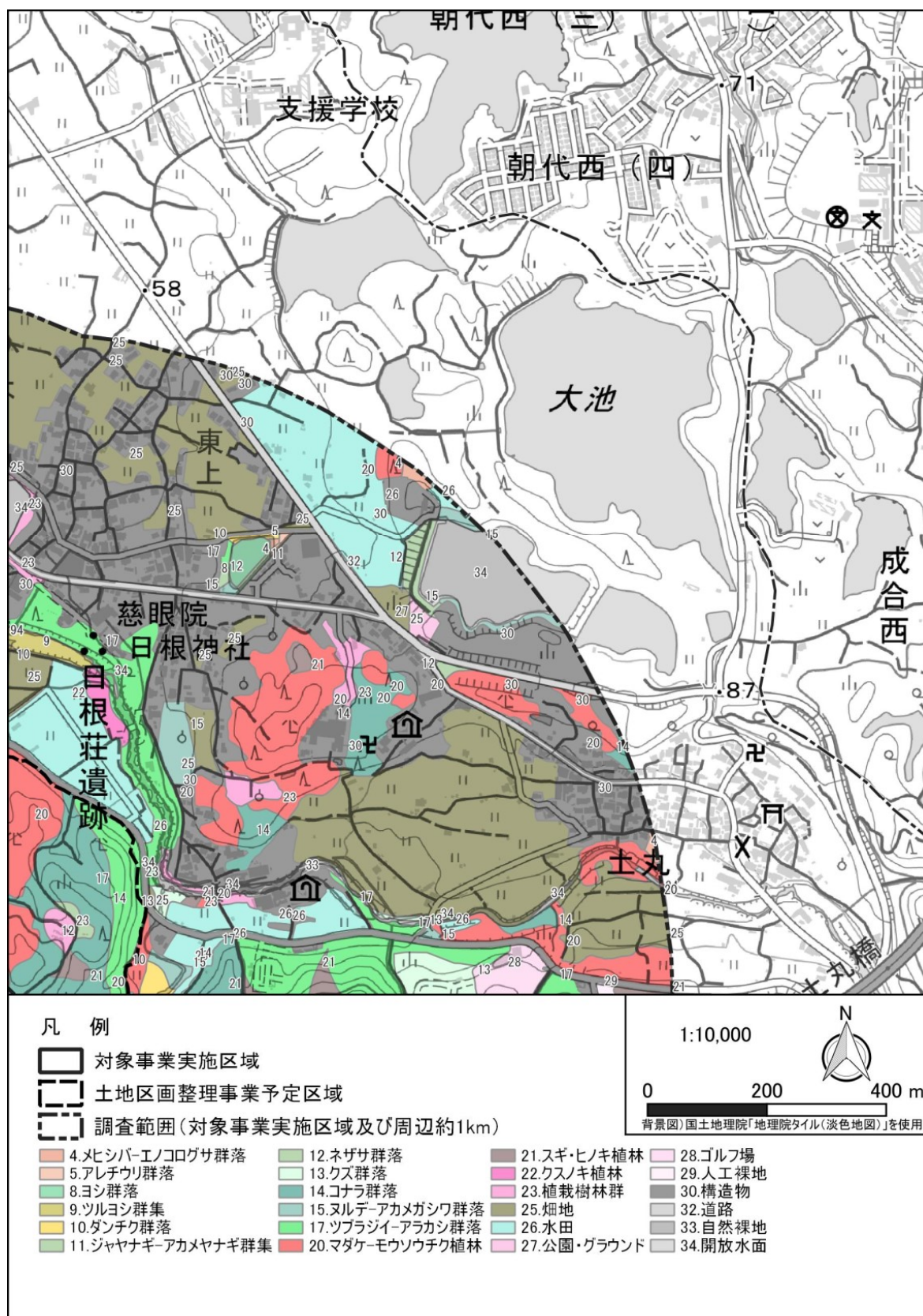
注) ヒツジグサ群落は重要種保護の観点から分布は記載していない。

図7. 7. 2-2 植生分布状況(広域)



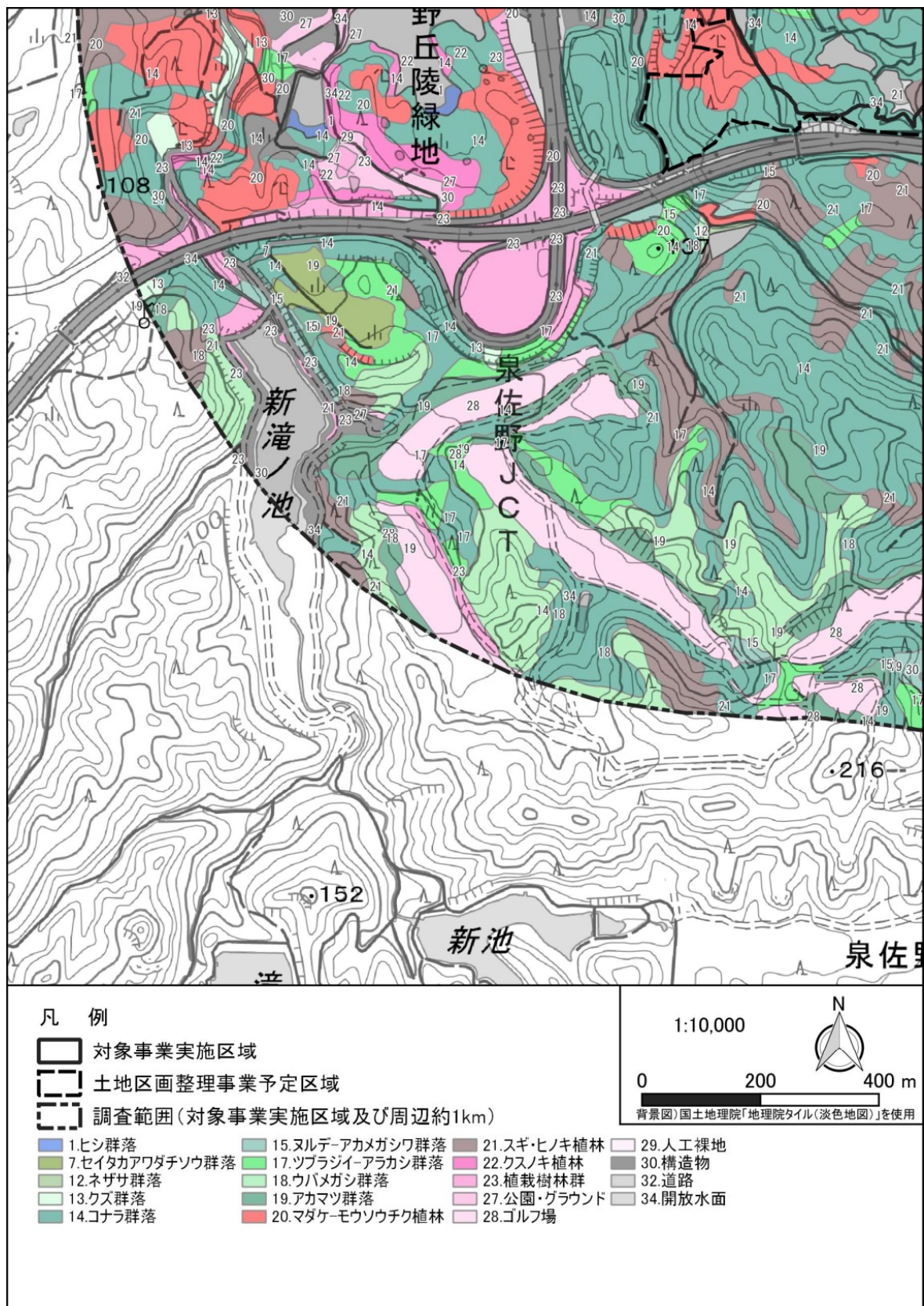
注) ヒツジグサ群落は重要種保護の観点から分布は記載していない。

図7. 7. 2-3 (1) 植生分布状況 (詳細-北西)



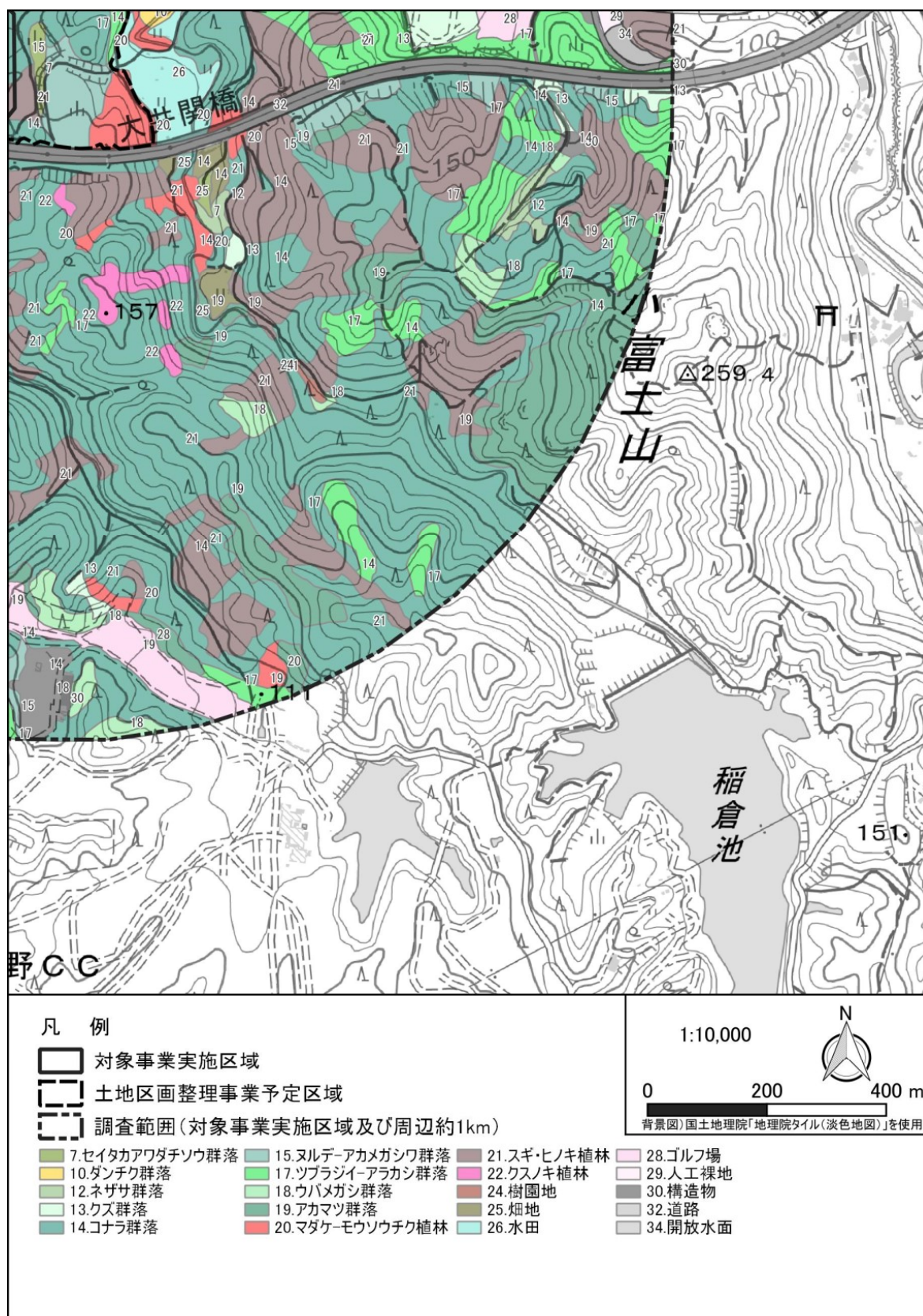
注) ヒツジグサ群落は重要種保護の観点から分布は記載していない。

図7. 7. 2-3 (2) 植生分布状況(詳細-北東)



注) ヒツジグサ群落は重要種保護の観点から分布は記載していない。

図7. 7. 2-3 (3) 植生分布状況(詳細-南西)



注) ヒツジグサ群落は重要種保護の観点から分布は記載していない。

図7. 7. 2-3 (4) 植生分布状況(詳細-南東)

表 7. 7. 2-6 (1) 植物群落の概要

No.	植生単位	相観・優占種・立地	組成・構造
1	ヒシ群落	・一年生浮葉植物群落 ・ヒシが優占する ・ため池の一部に分布	高さ 0.1m のヒシが優占し、ため池の水面を覆う。草本層でヒシが単一でまとまって生育している。調査地点での植被率は、草本層 75% となっている。
2	ヒツジグサ群落	・多年生浮葉植物群落 ・ヒツジグサが優占する ・ため池の一部に分布	高さ 0.1m のヒツジグサが優占し、ため池の一部の水面を覆う。草本層でヒツジグサが単一でまとまって生育している。調査地点での植被率は、草本層 70% となっている。
3	オオイヌタデ- オオクサキビ 群落	・一年生草本群落 ・ボンドクタデが優占する ・樫井川の中洲の一部に分布	高さ 1.0m のボントクタデが優占し、樫井川の砂州の一部を覆う。草本層にヒロハハウキギク及びオオクサキビ等が生育している。調査地点での植被率は、草本層 90% となっている。
4	メヒシバ-エノ コログサ群落	・一年生草本群落 ・アキノエノコログサが優占する ・市街地、畑地の一部に分布	高さ 1.0m のアキノエノコログサが優占し、市街地の空地、畑地周辺で成立している。草本層にメヒシバ、コセンダングサ及びアレチヌスビトハギ等が生育している。調査地点での植被率は、草本層 90% となっている。
5	アレチウリ群落	・一年生蔓性草本群落 ・アレチウリが優占する ・市街地のため池の一部に分布	高さ 0.8m のアレチウリが優占し、市街地のため池周辺で成立している。草本層にオヒシバ及びコセンダングサ等が生育しており、調査地点での植被率は、草本層 95% となっている。
6	カナムグラ群落	・一年生蔓性草本群落 ・カナムグラが優占する ・樫井川の中洲の一部に分布	高さ 1.0m のカナムグラが優占し、樫井川の砂州の一部を覆う。草本層にクズ及びオオブタグサ等が生育している。調査地点での植被率は、草本層 95% となっている。
7	セイタカアワ ダチソウ群落	・多年生草本群落 ・セイタカアワダチソウが優占する ・樫井川の中洲の一部や西地区の一部に分布	高さ 0.7m のセイタカアワダチソウが優占し、樫井川の中洲の一部や西地区の一部で成立している。草本層にオオアレチノギク及びヨモギ等が生育している。調査地点での植被率は、草本層 80% となっている。
8	ヨシ群落	・単子葉草本群落 ・ヨシが優占する ・市街地のため池に分布	高さ 2.0m のヨシが優占し、市街地のため池で成立している。草本層にヒメガマ及びアメリカセンダングサ等が生育している。調査地点での植被率は、草本層 90% となっている。
9	ツルヨシ群集	・単子葉草本群落 ・ツルヨシが優占する ・樫井川の中洲に連続的に分布	高さ 2.0m のツルヨシが優占し、樫井川の中洲で連続的に成立している。草本層にカナムグラ及びクズ等が生育している。調査地点での植被率は、草本層 60% となっている。

表 7. 7. 2-6 (2) 植物群落の概要

No.	植生単位	相観・優占種・立地	組成・構造
10	ダンチク群落	・ 単子葉草本群落 ・ ダンチクが優占する ・ 樫井川の中洲に連続的に分布	高さ 3.0m のダンチクが優占し、樫井川の河岸の一部で成立している。低木層にダンチク並びに草本層にカラムシ及びカラスノゴマ等が生育している。調査地点での植被率は、低木層 80%、草本層 80% となっている。
11	ジャヤナギ-アカメヤナギ群集	・ ヤナギ低木林 ・ ジャヤナギが優占する ・ 市街地のため池の一部に分布	高さ 5.0m のジャヤナギが優占し、市街地のため池周辺で成立している。低木層にジャヤナギ並びに草本層にアレチウリ及びヤブガラシ等が生育しており、調査地点での植被率は、低木層 80%、草本層 90% となっている。
12	ネザサ群落	・ その他低木林 ・ ネザサが優占する ・ 市街地のため池の一部、山地の一部に分布	高さ 1.5m のネザサが優占し、市街地のため池周辺や山地の一部で成立している。低木層にネザサ及びアケビ等並びに草本層にヌスビトハギ及びヒナタイノコズチ等が生育している。調査地点での植被率は、低木層 90%、草本層 20% となっている。
13	クズ群落	・ 多年生蔓性群落 ・ クズが優占する ・ 樫井川の一部に分布	高さ 0.6m のクズが優占し、樫井川の一部で成立している。草本層にマメアサガオ及びアキノエノコログサ等が生育している。調査地点での植被率は、草本層 90% となっている。
14	コナラ群落	・ 落葉広葉樹林 ・ コナラが優占する ・ 調査範囲一帯に分布	高さ 15m のコナラが優占し、調査範囲一帯で成立している。高木層にヤマザクラ及びツブラジイ等、亜高木層にソゴ及びアラカシ等、低木層にウバメガシ及びクロバイ等並びに草本層にベニシダ等が生育している。調査地点での植被率は、高木層 70%、亜高木層 70%、低木層 35%、草本層 5% となっている。
15	ヌルデ-アカメガシワ群落	・ その他低木林 ・ アカメガシワが優占する ・ 樫井川の一部及び山地の一部に分布	高さ 4.5m のアカメガシワが優占し、樫井川の一部及び山地の一部で成立している。低木層にクサギ及びエノキ等並びに草本層にクズ及びクサイチゴ等が生育している。調査地点での植被率は、低木層 90%、草本層 20% となっている。
16	ムクノキ-エノキ群集	・ 落葉広葉樹林 ・ エノキが優占する ・ 樫井川の一部に分布	高さ 4.0m のエノキが優占し、樫井川の一部で成立している。低木層にエノキ及びクズ等並びに草本層にクズ及びノウゼンカズラ等が生育している。調査地点での植被率は、低木層 90%、草本層 90% となっている。

表 7. 7. 2-6 (3) 植物群落の概要

No.	植生単位	相観・優占種・立地	組成・構造
17	ツブラジイ-アラカシ群落	・常緑広葉樹林 ・ツブラジイが優占する ・調査範囲一帯に分布	高さ 15m のコナラが優占し、調査範囲一帯で成立している。高木層にツブラジイ及びアベマキ等、亜高木層にヤブツバキ及びアラカシ等、低木層にアオキ、サカキ及びミミズバイ等並びに草本層にベニシダ及びアオキ等が生育している。調査地点での植被率は、高木層 90%、亜高木層 60%、低木層 50%、草本層 10% となっている。
18	ウバメガシ群落	・常緑広葉樹林 ・ウバメガシが優占する ・山地の尾根筋や斜面地の一部に分布	高さ 12m のウバメガシが優占し、山地の尾根筋や斜面地で成立している。高木層にウバメガシ、低木層にネジキ及びサカキ等並びに草本層にコシダ及びヒサカキ等が生育している。調査地点での植被率は、高木層 95%、低木層 25%、草本層 90% となっている。
19	アカマツ群落	・常緑針葉樹林 ・アカマツが優占する ・山地の尾根筋の一部に分布	高さ 9.0m のアカマツが優占し、山地の尾根筋で成立している。亜高木層にアカマツ、低木層にネジキ及びシャシャンボ等並びに草本層にコシダ及びフジ等が生育している。調査地点での植被率は、亜高木層 70%、低木層 35%、草本層 25% となっている。
20	マダケ-モウソウチク群落	・竹林 ・モウソウチクが優占する ・調査範囲の一部に分布	高さ 13m のモウソウチクが優占し、調査範囲の一部で成立している。高木層にモウソウチク、低木層にヤブツバキ及びイヌビワ等並びに草本層にナガバジャノヒゲ及びヤブラン等が生育している。調査地点での植被率は、高木層 100%、低木層 2%、草本層 1% となっている。
21	スギ-ヒノキ植林	・植林地 ・ヒノキが優占する ・調査範囲一帯に分布	高さ 15m のヒノキが優占し、調査範囲一帯で成立している。一帯で成立している。高木層にヒノキ、低木層にサカキ並びに草本層にベニシダ及びヒメユズリハ等が生育している。調査地点での植被率は、高木層 90%、低木層 5%、草本層 1% となっている。
22	クスノキ植林	・植林地 ・クスノキが優占する ・調査範囲の一部に分布	高さ 18m のクスノキが優占し、調査範囲の一部で成立している。高木層にクスノキ及びアラカシ等、亜高木層にアラカシ及びヤマモモ等、低木層にサカキ及びネザサ等並びに草本層にベニシダ及びウラジロ等が生育している。調査地点での植被率は、高木層 90%、亜高木層 20%、低木層 10%、草本層 5% となっている。

(イ) 植物群落の面積

植物群落の面積を表 7. 7. 2-7 に示す。

調査範囲においては、コナラ群落 が 111.02 h a (22.49%) で約 2 割を占め、次いで
構造物が 88.12 h a (17.85%)、畑地 65.31 h a (13.23%) の順となっている。

表 7. 7. 2-7 植物群落の面積

No.	群 落 名	調査範囲	
		面積(ha)	割合 (%)
1	ヒシ群落	0.28	0.06
2	ヒツジグサ群落	0.06	0.01
3	オオイヌタデ-オオクサキビ群落	0.06	0.01
4	メヒシバ-エノコログサ群落	0.25	0.05
5	アレチウリ群落	0.05	0.01
6	カナムグラ群落	0.34	0.07
7	セイタカアワダチソウ群落	2.12	0.43
8	ヨシ群落	0.35	0.07
9	ツルヨシ群集	2.40	0.49
10	ダンチク群落	1.63	0.33
11	ジャヤナギ-アカメヤナギ群集	0.07	0.01
12	ネザサ群落	1.58	0.32
13	クズ群落	4.20	0.85
14	コナラ群落	111.02	22.49
15	ヌルデ-アカメガシワ群落	5.75	1.17
16	ムクノキ-エノキ群集	0.43	0.09
17	ツブラジイ-アラカシ群落	24.68	5.00
18	ウバメガシ群落	12.78	2.59
19	アカマツ群落	16.48	3.34
20	マダケ-モウソウチク群落	37.96	7.69
21	スギ-ヒノキ植林	36.60	7.42
22	クスノキ植林	4.17	0.84
23	植栽樹林群	10.89	2.21
24	樹園地	0.11	0.02
25	畑地	65.31	13.23
26	水田	16.09	3.26
27	公園・グラウンド	3.64	0.74
28	ゴルフ場	13.60	2.76
29	人工裸地	0.51	0.10
30	構造物	88.12	17.85
31	コンクリート構造物	0.30	0.06
32	道路	18.79	3.81
33	自然裸地	0.05	0.01
34	開放水面	12.89	2.61
合 計		493.56	100.00

備考 1) 面積及び割合は小数第三位以下で四捨五入した数字を記載した。

備考 2) 表中に掲載している数値は端数を四捨五入しているため、各欄の値の合計と合致しないことがある。

4) 注目すべき種

ア 選定基準

注目すべき陸生植物の選定基準を表 7. 7. 2-8 に示す。

表 7. 7. 2-8 注目すべき陸生植物の選定基準

No.	選定基準	略号	カテゴリ
1	「文化財保護法」 (昭和 25 年法律第 214 号 改正 : 令和 2 年法律第 41 号) 「大阪府文化財保護条例」 (昭和 44 年 3 月 28 日大阪府条例 第 5 号) 「泉佐野市文化財保護条例」 (平成 2 年 3 月 30 日泉佐野市条 令第 6 号)	文化財保護法	特天 : 特別天然記念物 天 : 天然記念物 (国、県又は市町村)
2	「絶滅のおそれのある野生動植物 の種の保存に関する法律」 (平成 4 年法律第 75 号 改正 : 令 和元年法律第 37 号)	種の保存法	国内 : 国内希少野生動植物種 国際 : 国際希少野生動植物種 緊急 : 緊急指定種
3	自然環境保全基礎調査特定植物群 落調査報告書 (環境省 平成 12 年)	特定植物群落	特定 : 特定植物群落に指定される 種
4	「環境省レッドリスト 2020」 (環境省 令和 2 年)	環境省 RL	EX : 絶滅 EW : 野生絶滅 CR : 絶滅危惧 IA 類 EN : 絶滅危惧 IB 類 VU : 絶滅危惧 II 類 NT : 準絶滅危惧 DD : 情報不足
5	「大阪府レッドリスト 2014」 (大阪府 平成 26 年)	大阪府 RL	EX : 絶滅 CR+EN : 絶滅危惧 I 類 VU : 絶滅危惧 II 類 NT : 準絶滅危惧 DD : 情報不足
6	改訂・近畿地方の保護上重要な植 物-レッドデータブック 近畿 2001- (レッドデータブック近畿研究会 平成 13 年)	RDB 近畿	絶滅 : 絶滅種 A : 絶滅危惧種 A B : 絶滅危惧種 B C : 絶滅危惧種 C 準 : 準絶滅危惧種

イ 選定結果

選定された注目すべき陸生植物は表 7. 7. 2-9 に示すとおりであり、10 種であった。注目すべき植物群落は確認されなかった。

なお、植物相調査で確認されているニラは、「改訂・近畿地方の保護上重要な植物－レッドデータブック近畿 2001－」（レッドデータブック近畿研究会 平成 13 年）の絶滅危惧種 A に該当するが、民家付近の確認であり、栽培されていた個体が野生化した逸出種と推定されたことから、注目すべき陸生植物として選定しなかった。

また、野生動植物の種の保存の観点から、公表資料である評価書においては、注目すべき種の確認位置等は記載しない方針としている。

表 7. 7. 2-9 注目すべき陸生植物

No.	種名	選定基準					
		文化財 保護法	種の 保存法	特定植 物群落	環境省 RL	大阪府 RL	RDB 近畿
9	マツバラン				NT	CR+EN	準
93	ヒツジグサ					NT	
114	ヒナノシャクジョウ					VU	B
118	ホンゴウソウ				VU	VU	準
126	キンラン				VU	VU	C
140	ノシラン					DD	C
183	フトイ					VU	
385	ヒメミソハギ					NT	C
386	ミズマツバ				VU	NT	C
498	ケテイカカズラ						準

備考 1) 種名及び配列等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（公益財団法人リバーフロント研究所 令和 3 年）に準拠した。

備考 2) No. は表 7. 7. 2-4 に記載する調査結果の No. を記載した。

(ア) 植物相

注目すべき植物の生態的知見及び確認状況を表 7. 7. 2-10 に示す。

表 7. 7. 2-10 (1) 注目すべき植物の生態的知見及び確認状況

種名	生態的知見	確認状況
マツバラン	・分布：本州（宮城県及び石川県以西の暖地）、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：暖地では樹幹に着生するが、北の分布限界近くでは岩隙生となる。	早春季に 20 個体、春季に 29 個体及び夏季に 6 個体確認された。
ヒツジグサ	・分布：北海道、本州、四国及び九州に分布する。 ・生育環境：低地の古い池や沼に生育する。	夏季に 120 個体及び秋季に 120 個体確認された。
ヒナノシャクジョウ	・分布：本州（関東以西）、四国、九州及び沖縄等に分布する。 ・生育環境：林下の落葉の中に生育する。	夏季に 10 個体確認された。
ホンゴウソウ	・分布：本州（関東以西）、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：暗い林の下の落ち葉の間に生育する。	夏季に 36 個体確認された。
キンラン	・分布：本州、四国及び九州に分布する。 ・生育環境：山や丘陵地の疎林下に生育する。	春季に 6 個体確認された。
ノシラン	・分布：本州（東海地方以西）、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生息環境：海に近い林の下に生育する。	夏季に 2 個体確認された。
フトイ	・分布：北海道、本州、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：平地や山地の池沼等の浅水中に生育する。	秋季に 20 個体確認された。
ヒメミソハギ	・分布：本州、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：水田や湿地に生育する。	夏季に 10 個体及び秋季に 211 個体確認された。
ミズマツバ	・分布：本州、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：水田や湿地に生育する。	秋季に 23 個体確認された。

表 7. 7. 2 - 1 0 (2) 注 目 す べ き 植 物 の 生 態 的 知 見 及 び 確 認 状 況

種 名	生 態 的 知 見	確 認 状 況
ケ テ イ カ カ ズ ラ	・ 分 布 : 本 州 (近 畿 地 方 以 西) 、 四 国 、 九 州 及 び 沖 縄 に 分 布 す る 。 ・ 生 育 環 境 : 常 緑 樹 林 の 林 床 や 林 縁 に 生 育 す る 。	春 季 に 10 個 体 及 び 夏 季 に 2 個 体 確 認 さ れ た 。

出典)「日本の野生植物シダ」(岩槻邦男 平成 4 年 2 月)

「日本の野生植物草本 I 単子葉類」(佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 昭和 57 年 1 月)

「日本の野生植物草本 I I 離弁花類」(佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 昭和 57 年 3 月)

「日本の野生植物木本 I I」(佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫 昭和 64 年 2 月)

「京都府レッドデータブック 2015」(京都府 平成 27 年) より作成

(2) 予測

1) 概要

土地区画整理事業による陸生植物に対する影響について、類似事例、造成工事及び施設の計画を基に予測し、方法書の評価の指針に照らし評価した。

2) 予測内容

陸生植物の予測内容を表 7. 7. 2-11 に示す。

表 7. 7. 2-11 植物の予測の内容

予測事項	土地区画整理事業における造成工事による陸生植物に対する影響
予測項目	植物相及び植物群落
予測対象時期	造成工事による影響が最大になる時期
予測対象範囲	調査範囲と同様
予測方法	類似事例及び事業計画を踏まえた定性予測

3) 環境保全対策

予測の前提とした環境保全対策を表 7. 7. 2-12 に示す。

なお、土地区画整理事業については環境影響評価対象ではなく、事業者も異なることから、造成計画の変更はできないものとして環境保全対策を検討した。

表 7. 7. 2-12 前提とした環境保全対策

影響要因		発生する影響	環境保全対策
土地区画整理事業	造成工事	生育地の消失	・残置林の確保 ・法面緑化

4) 予測方法

注目すべき陸生植物の予測は、現況調査結果及び事業計画の環境配慮事項を踏まえ、注目すべき陸生植物に影響を及ぼす環境の変化を勘案し、類似事例を基に予測した。

5) 予測結果

ア 植物

注目すべき植物の予測結果は表 7. 7. 2-13 に示すとおりである。

表 7. 7. 2-13 (1) マツバランの予測結果

マツバラン			
生態的知見		・分布：本州（宮城県及び石川県以西の暖地）、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：暖地では樹幹に着生するが、北の分布限界近くでは岩隙生となる。	
確認状況	造成工事予定区域内		早春季に20個体、春季に29個体及び夏季に6個体確認された。
	造成工事予定区域外		確認されなかった。
工事の実施	土地区画整理事業	造成工事による影響	本種の生育箇所10カ所は造成工事により消失するため、本種の生育箇所への影響は大きいと予測されることから、環境保全対策として周辺環境が移植元と類似した生育適地への移植を専門家の意見を踏まえ講ずる。 以上により、本種の生育箇所への影響の代償措置を講ずること、本種への影響は残るものの、事業者の実施可能な範囲で影響は低減されるものと考えられる。

表 7. 7. 2-13 (2) ヒツジグサの予測結果

ヒツジグサ			
生態的知見		・分布：北海道、本州、四国及び九州に分布する。 ・生育環境：低地の古い池や沼に生育する。	
確認状況	造成工事予定区域内		夏季に120個体及び秋季に120個体確認された。
	造成工事予定区域外		確認されなかった。
工事の実施	土地区画整理事業	造成工事による影響	本種の生育箇所2カ所は造成工事により消失するため、本種の生育箇所への影響は大きいと予測されることから、環境保全対策として周辺環境や生息種が移植元と類似した生育適地への移植を専門家の意見を踏まえ講ずる。 以上により、本種の生育箇所への影響の代償措置を講ずること、本種への影響は残るものの、事業者の実施可能な範囲で影響は低減されるものと考えられる。

表 7. 7. 2-13 (3) ヒナノシャクジョウの予測結果

ヒナノシャクジョウ			
生態的知見		・分布：本州（関東以西）、四国、九州及び沖縄等に分布する。 ・生育環境：林下の落葉の中に生育する。	
確認状況	造成工事予定区域内		夏季に10個体確認された。
	造成工事予定区域外		確認されなかった。
工事の実施	土地区画整理事業	造成工事による影響	本種の生育箇所1カ所は造成工事により消失するため、本種の生育箇所への影響は大きいと予測されることから、環境保全対策として周辺環境が移植元と類似した生育適地への移植を専門家の意見を踏まえ講ずる。 以上により、本種の生育箇所への影響の代償措置を講ずること、本種への影響は残るものの、事業者の実施可能な範囲で影響は低減されるものと考えられる。

表 7. 7. 2-13 (4) ホンゴウソウの予測結果

ホンゴウソウ			
生態的知見		・分布：本州（関東以西）、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：暗い林の下の落ち葉の間に生育する。	
確認状況	造成工事予定区域内		夏季に1個体確認された。
	造成工事予定区域外		夏季に35個体確認された。
工事の実施	土地区画整理事業	造成工事による影響	本種の生育箇所4カ所のうち、造成工事により1カ所が消失するが、周辺に生育箇所が残存する。残存する箇所については、造成工事予定区域からの離隔が十分にあることから、本種への影響は小さいと考えられる。

表 7. 7. 2-13 (5) キンランの予測結果

キンラン			
生態的知見		・分布：本州、四国及び九州に分布する。 ・生育環境：山や丘陵地の疎林下に生育する。	
確認状況	造成工事予定区域内		春季に 6 個体確認された。
	造成工事予定区域外		確認されなかった。
工事の実施	土地 区画 整理事業	造成工事による影響	本種の生育箇所 1 カ所は造成工事により消失するため、本種の生育箇所への影響は大きいと予測されることから、環境保全対策として周辺環境が移植元と類似した生育適地への移植を専門家の意見を踏まえ講ずる。 以上により、本種の生育箇所への影響の代償措置を講ずること で、本種への影響は残るものの、事業者の実施可能な範囲で影響は低減されるものと考えられる。

表 7. 7. 2-13 (6) ノシランの予測結果

ノシラン			
生態的知見		・分布：本州（東海地方以西）、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生息環境：海に近い林の下に生育する。	
確認状況	造成工事予定区域内		夏季に 2 個体確認された。
	造成工事予定区域外		確認されなかった。
工事の実施	土地 区画 整理事業	造成工事による影響	本種の生育箇所 1 カ所は造成工事により消失するため、本種の生育箇所への影響は大きいと予測されることから、環境保全対策として周辺環境が移植元と類似した生育適地への移植を専門家の意見を踏まえ講ずる。 以上により、本種の生育箇所への影響の代償措置を講ずること で、本種への影響は残るものの、事業者の実施可能な範囲で影響は低減されるものと考えられる。

表 7. 7. 2-13 (7) フトイの予測結果

フトイ		
生態的知見		・分布：北海道、本州、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：平地や山地の池沼等の浅水中に生育する。
確認状況	造成工事予定区域内	秋季に20個体確認された。
	造成工事予定区域外	確認されなかった。
工事の実施	土地 区画 整理事業	造成工事による影響 本種の生育箇所1カ所は造成工事により消失するため、本種の生育箇所への影響は大きいと予測されることから、環境保全対策として周辺環境や生息種が移植元と類似した生育適地への移植を専門家の意見を踏まえ講ずる。 以上により、本種の生育箇所への影響の代償措置を講ずること で、本種への影響は残るものの、事業者の実施可能な範囲で影響は低減されるものと考えられる。

表 7. 7. 2-13 (8) ヒメミソハギの予測結果

ヒメミソハギ		
生態的知見		・分布：本州、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：水田や湿地に生育する。
確認状況	造成工事予定区域内	確認されなかった。
	造成工事予定区域外	夏季に10個体及び秋季に211個体確認された。
工事の実施	土地 区画 整理事業	造成工事による影響 本種の生育箇所5カ所は造成工事による改変は生じないため、本種の生育箇所への影響はないと予測される。一部の生育箇所は造成工事からの離隔が小さいため、影響が生じる可能性があるが、その場合でも周辺に生育箇所は残存するため、本種への影響は小さいと考えられる。

表 7. 7. 2-13 (9) ミズマツバの予測結果

ミズマツバ		
生態的知見		・分布：本州、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：水田や湿地に生育する。
確認状況	造成工事予定区域内	確認されなかった。
	造成工事予定区域外	秋季に23個体確認された。
工事の実施	土地 区画 整理 事業	造成工事による影響 本種の生育箇所2カ所は造成工事による改変は生じないため、本種の生育箇所への影響はないと予測される。残存する箇所については、造成工事からの離隔が十分にあることから、本種への影響は小さいと考えられる。

表 7. 7. 2-13 (10) ケテイカカズラの予測結果

ケテイカカズラ		
生態的知見		・分布：本州（近畿地方以西）、四国、九州及び沖縄に分布する。 ・生育環境：常緑樹林の林床や林縁に生育する。
確認状況	造成工事予定区域内	春季に5個体及び夏季に1個体確認された。
	造成工事予定区域外	春季に5個体及び夏季に1個体確認された。
工事の実施	土地 区画 整理 事業	造成工事による影響 本種の生育箇所3カ所のうち、造成工事により2カ所が消失するため、本種の生育箇所への影響は大きいと予測されることから、環境保全対策として生育適地への移植を専門家の意見を踏まえ講ずる。 また、一部の生育箇所は造成工事からの離隔が小さく、影響が生じる可能性があるため、必要に応じて環境保全対策として周辺環境が移植元と類似した生育適地への移植を専門家の意見を踏まえ講ずる。 以上により、本種の生育箇所への影響の代償措置を講ずることで、本種への影響は残るものの、事業者の実施可能な範囲で影響は低減されるものと考えられる。

イ 予測結果のまとめ

予測結果のまとめを表 7. 7. 2-14 に示す。

予測の結果、陸生植物に対する影響は一部の種について造成工事による生育地の消失や大規模な縮小が予測されるため、別途環境保全対策を講ずることとした。

表 7. 7. 2-14 予測結果のまとめ

分類群	種名	造成工事
植物相	マツバラシ	◎
	ヒツジグサ	◎
	ヒナノシヤクジョウ	◎
	ホンゴウソウ	—
	キンラン	◎
	ノシラン	◎
	フトイ	◎
	ヒメミソハギ	—
	ミズマツバ	—
	ケテイカカズラ	◎

注) 凡例は以下の通り。

- ◎：直接的な影響が大きい、もしくは間接的な影響が想定され、第2章第4節環境保全対策の実施方針に記載のある環境保全対策により影響が低減されない種
- ：直接的な影響が小さい、もしくは間接的な影響が想定されない種

(3) 評価

1) 評価方法

予測結果について、以下に示す評価の指針に照らして評価した。

評価 の 指 針	①環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。 ②環境基本計画、大阪府環境総合計画等、国、大阪府又は泉佐野市が定める環境に関する計画及び方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。 ③絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に定める基準等に適合するものであること。
-------------------	--

2) 評価結果

ア 工事の実施

(ア) 土地区画整理事業の造成工事

予測結果によると、造成工事により生育地の改変が予測されるが、前提とした環境保全対策として残置林の確保及び法面緑化を行う他、影響が大きいと予測された種について別途環境保全対策を講ずる。また、造成工事予定区域内で確認された注目すべき植物や移植を実施した植物種については記録（標本化）を実施する。

上記の対策を講ずることから、事業者の実施可能な範囲で環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮していると評価する。

以上のことから、評価の指針を満足すると考えられる。